

法政大学社会学部で世界の飢餓、貧困、人権問題を講じる傍ら、多摩の山間地にあるキャンパスの一角で学生諸君と有機農業実験畑を始めて5年。昨年あたりから就活に悩む3・4年生には、有機提携での新規就農を推奨している。…という手前、無責任な勧誘にならぬよう、現場を見るべく参加。学生にも呼びかけたが参加なく、強引に誘えばよかったと反省。暑い夏の、さわやかで、楽しい見学会だった。

第一に、見学させてもらった農園の3人の顔、そして話しっぷりがいい。自分がとりくむ土地と種との対話。実りを待ち構える自分の提携の消費者のひとたちとの対話。そんな対話の調子が目に見えるようで、楽しくなる。

第二に、参加者とスタッフがいい。ほわっとして、企業関係の集まりや利権がらみの学会などで時に強烈に感じる、ぎらついた殺人光線、それを防ぐ能面バリアが見えない。畑では鋭い質問。懇親会などでは、家庭菜園から本格的な田んぼまで、それぞれの話がまたおもしろい。お友だちがたくさん、これからおもしろいことができそう。

第三に、都心からこんなに近いところで、…という驚き。迫りくる工場、重機、幹線道路。自然と調和した農業には最悪の立地かも。だが、逆に考えよう。ここは自然農業が近代都市文明を追い詰めた最前線。通いの研修生も募集中っていうし、都市生活大好きな学生諸君、こんな農業もありだぜ、いざ進め！と、突撃ラッパを吹きたくなった。(岡野内 正)